

日本心理学会第82回大会公開シンポジウム「震災を語る、伝える ～心理学ができること～」に登壇しました(2018/09/26)

テーマ：心理学、震災伝承
URL：<http://jpa2018.com/>

9月26日(水)、仙台国際センター(仙台市青葉区)を会場にして、日本心理学会第82回大会公開シンポジウム「震災を語る、伝える ～心理学ができること～」が開催されました。9月25日～27日の3日間は、同大会が開催され、上記のシンポジウムは会員以外でも参加できる公開型のシンポジウムとして開催されました。企画者は、当研究所の邑本俊亮教授(人間・社会対応研究部門)で、震災の記憶の伝承に焦点を当てたものです。全国の被災地には、震災の記憶を語り継いでいこうと活動されている語り部さんが多数いらっしゃいます。このシンポジウムは、語り部さんのお話が聞き手の心に何をもたらし、どんな内容が記憶に残るのか、ひいては、どうすれば震災の記憶の風化を防げるのかなどについて、心理学ができることを考える場として企画したものです。

シンポジウムでは、南三陸町で語り部活動をされている南三陸ホテル観洋の伊藤俊氏、当研究所の佐藤翔輔准教授(情報管理・社会連携部門)、青山学院大学 米田英嗣准教授の3名が話題提供を行い、指定討論者である邑本俊亮教授から質疑を交えたパネルディスカッションが行われました。佐藤翔輔准教授は「震災体験を「伝える」媒体が心理・記憶に与える影響に関する実験の試み(暫定値)」という題目で、語りを伝える媒体の違いが聞き手(読み手)の心理や記憶に与える効果に関する実験的試みについて報告しました。

当日の同時時間帯は、9つのシンポジウムが同時並行で開催されているなか、約70名もの方にお越しいただきました。フロアからも沢山の質問・コメントをいただくことができ盛会となりました。



邑本俊亮教授によるシンポジウムの趣旨説明



佐藤翔輔准教授による話題提供

文責：佐藤翔輔(情報管理・社会連携部門)

写真提供：南三陸ホテル観洋・伊藤俊様